

笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2014.1 January vol. 28

新年明けまして おめでとうございます

新春にあたり皆様のご多幸をお祈り申し上げます

私たちにはアベノミクス効果は何ら感じられないばかりか、国家主義に走る政権は、ますます人を大切にする政治から遠のいています。私たちは、しっかりと社会を見据え、一人ひとりが大切にされる政治になるよう声をあげていかなくてはなりません。私も議員活動を通して、今後も皆様の声をしつかりと県政に届け、皆様が安心して暮らせる地域づくりに今年も精一杯努めてまいります。

十一月定例議会

11月19日から12月13日まで開催された11月定例議会では、一問一答方式による一般質問を行いました。その内容について報告します。

ネット被害から子どもを守る

携帯、スマートの普及で子どもたちが簡単にインターネット（ネット）につなぐことができるようになり、長時間にわたる利用から、ネットに依存する傾向が見られ、その対策について前回9月議会で質問しました。

今回は、ネットによって犯罪やいじめに巻き込まれることも多いなっており、ネット被害への対策についてさらに質問しました。

● 子どものネット犯罪被害の島根県の現状と、その対応について聞く。

警察本部長 出会い系サイトやコミュニティーサイトに起因する18歳未満の犯罪被害児童数は、全国では平成24年が1294人、本年上半期では、671人、前年上半期と比較

して38人増加。このうち島根県内では、平成24年が5人、本年上半期では1人の被害児童を確認。具体的には、ネットを利用して児童と知り合い、児童に自らのわいせつな画像を撮影、送信させたケースや、児童と知りながらわいせつな行為を行ったケースがある。

県警察では、小中高校で犯罪被辯防止教室を開催し、具体的な被辯事例をもとに、ネットを通じて見知らぬ異性と知り合ふことの危険性や、出会い系サイトなどの不適切なサイトを閲覧できなくなるフィルタリングの重要性について説明、啓発を行っている。また、本年10月から、サイバー・パトロールにおいて、児童がインターネットを利用して児童と知り合い、児童に自らのわいせつな画像を撮影、送信させたケースや、児童と知りながらわいせつな行為を行ったケースがある。

● 子どもたち自身がネットの有効性と危険性を学ぶことは、大人から伝え聞くことよりもしっかりと身につく。このような取り組みを取り入れていく考え。

教育長 生徒会活動で、自分たちでインターネット、スマート等の危険性等について勉強しそれを校内で子どもたちに知らせ取り組みが行われている高校もある。またPTA活動あ

るいは公民館活動で、同じような取り組みをしている事例もある。こうした事例を学校、家庭に積極的に広く情報提供することで、子どもたち自身が自ら考え主体的行動していく取り組みが広がっていくことを期待している。

ケータイ・スマホハンドブック



右側の本は、中高生のための携帯電話やスマートフォンの付き合い方について、名古屋市の金城学院の生徒が長年かけて検討してきた成果をまとめたものです。また、この若者の目標から、保護者や教師が賢い管理者になるための参考書として出版されたのが左側の本です。新しい情報手段としてインターネットはどううまく付き合つか参考になります。



知事と一問一答

子どもの医療費負担の軽減

県は就学前児童の医療費助成を原則1割負担とし、そのうえで入院2千円、通院1千円までの負担限度額を設けています。それと同様制度は益田市、海士町、隠岐の島町の3

市町で、他の市町村は負担額ゼロあるいは医療費助成の対象を小学生あるいは中学生にまで広げています。負担軽減に取り組む市町村に協力していく県の姿勢が必要です。

②親を対象にした家庭教育支援のための参加型学習プログラムの中に、携帯電話やインターネットの正しい利用をテーマにしたものを研修で伝える。③公民館に対する支援の助成事業を活用し、適切な

インターネットの利用をテーマにした講演会などを開催している。今後も、情報の提供を行っていきたい。

フードバンクの取組み

日本では年間5500万トンの食糧を輸入し、一方で1800万トン廃棄しています。この量はおよそ3000万人の食料に、途上国でいえば5000万人分の食料になります。そのうち1000万トンは家庭から廃棄されるいわゆる残飯です。また、飲食店や食品工場からもまだ食べられるにも関わらず廃棄されているものも約800万トンあります。



発行者 角智子 〒690-0063島根県松江市寺町67-23
TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
URL http://www.tomachan.net/

とまちゃん通信



フードバンクに寄せられた食品

フードバンクが機能するための県民への周知及び企業の協力を促すなどの県としての取り組みは、健康福祉部長 県社協では今年10月に、フードバンク事業を県内全域に広げるため、県や食品関連企業、福祉関係者などによる検討会を設置された。検討会では、フードバンク活動を円滑に実施するための体制づくりという言葉も浸透している。

もったいないからありがとう

フードバンクの取り組み

12月12日、くにびきメッセでフードバンク推進シンポジウムが開かれました。島根県では、まだまだフードバン

クが開かれました。島根県ではまだまだフードバンク活動の必要性を広く啓発し、「もったいない」から「ありがとう」へと意識を高めていこうと、今回のシンポジウムが開かれました。

「食品ロス削減の取り組みと進捗状況」について農水省の食品産業環境対策室長の長野麻子さんから、「企業の食品ロスとフードバンクの活用」についてNPO法人セカンドハーベストジャパンの広報室長井出留美さんから、それぞれに基調講演がありました。官民が協力して食品ロスの削減に向けた国連運動にしようと、政府が取り組んでいること。食品ロスに向けて、流通販売での販売期限

ません。食品ロスの削減とフードバンク活動の必要性を広く啓発し、「もったいない」から「ありがとう」へと意識を高めていこうと、今回のシンポジウムが開かれました。

「食品ロス削減の取り組みと進捗状況」について農水省の食品産業環境対策室長の長野麻子さんから、「企業の食品ロスとフードバンクの活用」についてNPO法人セカンドハーベストジャパンの広報室長井出留美さんから、それぞれに基調講演がありました。官民が協力して食品ロスの削減に向けた国連運動にしようと、政府が取り組んでいること。食品ロスに向けて、流通販売での販売期限

ませんでした。

最後に井出さんが「未来は

かかることが未来を作る」と、いろいろ心配されることはあるが、今やることが大事

として述べられました。

12月13日、民主県民クラブで

防災の食糧備蓄も賞味期限

が来れば処分となるが、フード

バンクを利用し、生活困窮者や

福連施設等で活用することには

いかがか。

防災部長 賞味期限が迫つて

いる備蓄食料は、県が実施する

総合防災訓練、防災講演会、研

修会、出前講座等々で活用して

いる。今後、余るような状況が

生じれば、指摘を踏まえ考えて

いきたい。

防災の食糧備蓄も賞味期限

が来れば処分となるが、フード

バンクを利用し、生活困窮者や

福連施設等で活用することには

いかがか。

防災部長 賞味期限が迫つて

いる備蓄食料は、県が実施する

総合防災訓練、防災講演会、研

修会、出前講座等々で活用して

いる。今後、余るような状況が

生じれば、指摘を踏まえ考えて

いきたい。

防災の食糧備蓄も賞味期限

が来れば処分となるが、フード

バンクを利用し、生活困窮者や

福連施設等で活用することには

いかがか。

防災の食糧備蓄も賞味期限

が来れば処分となるが、フード

バンクを利用し、生活困窮者や